

会 議 録

会議の名称		平成 28 年度つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
開催日時		平成 29 年 3 月 15 日（木） 開会 10：00 閉会 12：00		
開催場所		つくば市役所消防庁舎 3 階多目的ホール		
事務局（担当課）		市長公室ひと・まち連携課		
出席者	委員	・一般社団法人つくば観光コンベンション協会 大山 寛 ・つくば市商工会 櫻井 姚 ・つくば市農業委員会 高谷 榮司 ・株式会社エデュケーションデザインラボ 平塚 知真子 ・筑波学院大学 大島 慎子 ・国立大学法人筑波大学 BENTON Caroline Fern ・つくば市福祉団体等連絡協議会 後藤 真紀 ・つくば市ボランティア連絡協議会 柘植 法子 ・特定非営利活動法人ままとーん 中井 聖 ・一般財団法人つくば市国際交流協会 小玉 喜三郎 ・株式会社常陽銀行 保原 幸弘 ・つくば市シルバー人材センター 福田 征男 ・日本労働組合総連合会茨城県連合会 カスミグループ労働組合連合会 奥谷 崇 ・株式会社茨城新聞社 関 富美也 ・一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 小山 幹治 ・筑波地区区会連合会 江戸 俊美 ・桜地区区会連合会 一色 喜美子 ・谷田部地区区会連合会 宮崎 栄二 ・荃崎地区区会連合会 小原 正彦 ・つくば市議会 塩田 尚 ・つくば市議会 神谷 大蔵 計 21 名		
	その他	オブザーバー つくば市副市長 飯野 哲雄		
	事務局	松本市長公室長，長市長公室次長，谷内ひと・まち連携課長，課員 5 名，各部の次長・企画監等		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1 名
会議次第	【全体会議】 1 開会 2 議事 （1）まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について （2）地方創生交付金事業の評価・検証について （3）平成 29 年度以降の事業について （4）その他			

1 開会

○公室長 定刻となりましたので、第4回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。

本日は、年度末の大変お忙しいところを御参集いただきまして誠にありがとうございます。

本日は、現在21名の委員に御出席をいただいておりますことを御報告いたします。

私は、本日の進行を担当いたします市長公室長の松本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして五十嵐市長より御挨拶を申し上げます。

○市 長 皆様、おはようございます。

年度末のお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

今日は、まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたしますのでよろしくお願いいたします。

市長になりまして4ヶ月になります。本当に最大の課題は、少子高齢化に対してどのような取り組みをしていくのか、どのように対策を打っていくのかということを非常に強く感じています。

「世界のつくば」と言われますが、その言葉に甘んじて何の対策も打たなければ、本当にゆで蛙のようになってしまいます。今のつくばは、非常に危機的な状況にあるという認識を持っています。また、議会でもこのようなことを考えてさまざまな答弁を述べて参りました。

東京一極集中については、残念ながらその傾向は未だに変わりません。つくば市では、2036年に人口予想が259,000人となり、そこがピークとされています。つくば市は人口が伸びているものの、基本的には社会増、外部からの流入が人口増の要因であります。出生率に関していえば、平均して1.4、沿線開発地区では2.4近くの数字が出ているので、何か活気があるように見えますが、市全体を見渡して見ますと、周辺地区の出生率は極めて低い状況にあります。今後、中心地区と周辺地区の問題についても腰を据えて取り組んでいかないと、問題は更に拡大していく一方だという思いがあります。

そのような中で、私は「世界の明日が見えるまち」というビジョンを掲げていますが、この少子高齢化の問題は世界中が直面しています。日本がそのフロンランナーですからその問題を解決している自治体は世界中でどこを探してもないと思います。これから皆様の知恵をいただきながら、この問題に対してつくばならではのアプローチをしていき、その解決策を示していくことで、世界中の問題の解決のヒントが「つくばを見れば分かる」、「つくばに来てみればそのモデルがある」と言われるようなつくばを皆さんのお力で

是非作り上げていただきたいと思います。

今日の会議では平成 28 年度の実行状況について、取り組み状況の評価、そして検証していただくことになっておりますが、忌憚のない御意見をいただければと思います。この会議では活発な議論がされているかと思いますが、庁内会議でも外部会議でも率直に、厳しい御批判を頂きながら進めていくことが大事だと考えています。表面的なコミュニケーションでお茶を濁している余裕はつくば市ではなく、厳しい意見をいただければいただくほどつくば市が前に進んでいくという思いでいます。

是非、今日はよろしく願います。とは言っていながら、私自身がこの後、直ぐに会議を抜けなくてはなりません、厳しい御意見は、副市長を始め市長公室長もおりますので、しっかりと受け止めてそれをいかしていきたいと思っております。

長時間になりますが、どうぞよろしく願います。誠にありがとうございます。

○公室長　　続きまして、平成 28 年度より新たに委員に御就任いただきました方の御紹介をさせていただきます。時間の都合上、所属とお名前だけの御紹介とさせていただきます。

つくば市工業団地企業連絡協議会会長、小宮様。

本日は御欠席となっております。

つくば市中学校・高等学校校長協議会会長、中島様。

本日は御欠席となっております。

つくば市 PTA 連絡協議会会長、羽方様。

本日は御欠席となっております。

株式会社常陽銀行研究学園都市支店長、保原様。

日本放送協会水戸放送局の局長、石川様。

本日は御欠席となっております。

筑波地区区会連合会会長、江戸様。

谷田部地区区会連合会副会長、宮崎様。

つくば市議会副議長、神谷様。

平成 28 年 12 月につくば文化振興財団理事より当市副市長に就任いたしました飯野副市長でございます。なお、文化振興財団の後任の方につきましては現在調整中となっております。

新しい委員の委嘱状につきましては、予め机上に配布させていただいております。

本日は事務局でありますひと・まち連携課並びに各部局より次長級の職員が同席させていただいておりますので、よろしく願います。

ここで五十嵐市長におかれましては、他の公務がございますので、退席をさせていただきます。

それでは、議事に入る前に配布資料の確認をさせていただきたいと思いま

す。

○事務局 （配布資料の確認）
よろしくお願いいたします。

2 議事

（１）まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について

○公室長 それでは、ただいまから議事に入ります。ここからはつくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第５条第３項の規定に基づきまして、小玉座長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○座 長 皆様、おはようございます。

寒い中お集まりいただきありがとうございます。時間が限られておりますので、早速議事に入りたいと思います。

先ほど市長からもお話がありましたように平成 27 年度に皆さんに御尽力を賜りましたプランを平成 27 年、平成 28 年で実行していただきました。今回は、平成 28 年度の実行状況について皆様からチェックをいただきたいということで進めてまいりたいと思います。

平成 27 年度に策定した総合戦略の事業が平成 28 年度に実行されているかどうかを評価する内容となっています。戦略の評価・検証として主に指標が立てられておりますが、その達成状況について御意見をいただければと思います。

その方法に関しまして最初に事務局から御説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 （資料 1－1， 1－2 の概要を説明）

○座 長 ありがとうございます。今のやり方に対して御質問はありますでしょうか。

それでは、各施策の評価・検証について事務局から御説明をお願いします。

○事務局 （資料 1－3， 1－4 追加， 1－5， 1－6， 1－7， 1－8 の概要について説明）

○座 長 ありがとうございます。それでは、皆様から御意見を伺いたいと思います。

数値目標と個別施策については資料 1－4 と 1－6 で説明がありました。予め資料に目を通していただいているとは思いますが、有識者会議はあくまでここで評価することではなく、評価自体が妥当であるかどうかについて議論していただければと思います。皆様から御意見をいただき、今後の施策に

反映していくようになっております。市長もおっしゃっていましたが、できるだけ厳しい目で御意見をいただければ、今後の参考になると思います。

それでは、資料 1－4 に対して御意見がありますでしょうか。指標目標は最終的には平成 31 年度までですが、目標値自体すでに上回っているものもあります。指数が妥当かどうかについては、今回は議論はしません。それはまた来年度に中間見直しでやるという理解でよろしいでしょうか。

順調に目標を達成しているところもありますが、それはそれでいいことなので、もっと見直して目標を上げることもあるかと思います。今回は指標自体についてではなく、達成について御意見をいただければと思います。

それでは、基本目標から御意見・御質問等あればいただけますでしょうか。

○委 員 総合評価は 3 段階ですね。

○座 長 S～E まで 6 段階あります。

○委 員 しかし今回、C 以下は全然出していませんが、C 以下がありえるってことですね。

資料 1－4 について、私の聞き間違いかもしれませんが、①－4 待機児童は前より増えたということでしょうか。

○座 長 事務局から説明をお願いします。

○事務局 待機児童につきましては、平成 28 年度実績のところがバーとなっておりまして、数字は出ていません。待機児童数は、春と秋に 2 回出しておりまして、今回は春の数字なので出ておりません。秋の数字の場合は、増えている結果がございましたので、感触としてはやや遅れとなります。

○委 員 前年度より多少でも増えたことになりますので、評価としては「やや遅れ」ではなく「遅れ」ではありませんか。資料 1－3 では、「遅れ」の定義は平成 28 年度の目標を達成しておらず、かつ基準よりも悪化していると記載されています。「やや遅れ」ではなく、「遅れ」ということですね。

○事務局 数字が確定した場合は、「遅れ」となります。

○委 員 では「やや遅れ」ではなく「遅れ」ということですね。進捗説明では「やや遅れ」と書いてあり、ここでは B 評価になっていますが、C 評価にもなる可能性があるということですね。

○座 長 横棒（バー）なので良く分かりませんが、概ね少なくとも 70 よりもかなり多いのであれば、評価はこのままでいいのでしょうか。

○委 員 評価がかなり甘い気がしました。是非、良く見ていただき、C以下の評価も付けることも考えてください。

○座 長 これは目標ですので、厳しく評価をした方が次のアクションに繋がるので、もう一度見直した方がよさそうですね。

○委 員 よろしくをお願いします。

○座 長 他にございますでしょうか。

○委 員 私も同感です。評価ではおそらく施策の基本的な変更がないのかなと思います。このまま推移しても改善するようなことはないのかなと思います。「子ども子育て会議」に出席していても思いますので、ここは厳しい評価を付けた方がいいと考えております。

○座 長 CがあいまいですとAまで行かないので、ここは厳しくC評価も付けたいと思います。他に御意見はありますか。

○委 員 今は、評価に対しての御意見ですが、根本的なこととして、一昨日、日本テレビの深夜12時ごろから放送している番組を見まして、これだけの人数がいらっしゃるの御覧になった方もいると思いますが、茨城県は独身男性が日本で圧倒的に多いというランキングになったとテレビでやっておりました。この番組は面白おかしくやる番組だったので、分析はしていませんでしたが、つくば市はどうなっているのでしょうか。独身男性は、茨城県が圧倒的に多く、福島県も同様であります。関東地方は、女性が東京に出て行き帰って来ないので、そのまま60代でも独身の方がすごく多いと言っていました。それを評価機関か研究機関かできちんとデータを出したそうです。その時言われていたのは、茨城県は魅力度ランキングで最下位であるが、実は独身男性が多いのがトップであると言っておりました。もし、つくば市は男女比がそれほど関係ないのであれば、この目標のやり方でいいわけですが、結婚するために女性が圧倒的に少なかった場合は、女性を呼び戻すところから始めないと、子育ての前段階の施策が将来的に必要なになってくると思います。つくば市では、どのような感じになっているのか一度調査をしていただいて、その結果について教えていただきたいと思います。

日本テレビの深夜12時頃から放送していた番組ですが、調べていただければお分かりになりますので、その番組というよりは、調査をした機関とその検証の結果をお願いします。そうしますと、結婚の施策をする前の段階で解決策を出すことができると思います。今回の評価とは関係ありませんが、重要なことだと思いましたので、申し上げました。

○座 長 資料 1－6 のⅡに関連があると思いますので、後でまた御発言いただきたいと思います。他に御意見はございますでしょうか。

○委 員 先ほど出ました待機児童の話ですが、①－4 の成果についてなぜこのような結論が出たのか、私にはさっぱり理解ができません。どういう根拠で待機児童が多すぎるという成果を出したのでしょうか。

○座 長 これは①－4 の右端にある成果についてですね。

○福祉部 成果についてですが、待機児童が 104 名、平成 28 年度は 70 名。これは 4 月時点での待機児童が 104 名ですので、平成 29 年度 4 月 1 日現在の数字が出ないということでバーになっております。昨年の秋と今年の秋を比較した場合、50 名ほど待機児童は減っております。ですから 3 人増えているという実績ではありません。

去年の秋が 196 名、今年の秋が 143 名の待機児童数であり、秋同士で比較しますと、53 名ほど減っております。

○委 員 春は増えていますか。

○福祉部 春同士は、今度の 4 月の数字が 6 月にならないと出てきませんので、横棒（バー）になっています。

○委 員 しかし、先ほど増える方向ですと説明がありましたが。

○福祉部 増える方向かどうかははっきりとした数字は出ておりません。

○委 員 辻褄というよりも、このようになったと結論を出しておりますが、それが我々の意識と大幅に違っています。なぜ、こういう結論を出したのか、この根拠は何なのかを聞きたいと思っています。待機児童が減らない原因はそういうことではないと思います。まず保育士が足りない、保育士の待遇が悪すぎることです。そして、潜在待機児童が多いすぎることです。そういう本質をきちんと認識しないで、箱は増やして人が増えたが、どうしても待機児童が減らないという結論であります。箱だけ増やしてもだめだということもう十分分かってきたことだと思います。今、つくば市内の中で、保育士の取り合いをやっているわけです。きちんとした本質をわきまえないと、いくらこういう認識で市が進めていっても待機児童は減りません。

○福祉部 ただ今、保育士処遇が十分ではないとの御意見がございましたが、今年の 4 月から保育士の処遇改善を併せて行う予定となっております。処遇

改善を行うことで待機児童の解消に努めていきたいと考えております。

○座 長 資料 1－4 の①－4 の右端にこれから更に保育需要が急増している
と書いてありますが、それ以外の要因があることも含めて書いていかないと
本当の解決にならないと思います。その辺りは今後を含めていただければ
と思います。

○委 員 私は、この会議に最初から参加させていただいておりまして、今
日は KPI の指標評価に関する意見を言うことは重々分かっています。「順調」、
「概ね順調」と書かれてありますが、(今日ここにいらしている皆さんの印象
として) 本質的な解決に全く近づいていないという実感が本当にひしひしと
感じております。先ほど市長が「すごい危機感を持っている」とおっしゃっ
ていましたが、「順調」、「概ね順調」という数字が 9 割で伸びると全く危機感
がないのではないのかなと強く思うわけです。そもそも KPI の立て方が先ほ
ど委員がおっしゃったように本質から外れたところの数字を追っかけている
印象が強くなります。こちらの検討は別にやるということでしょうが、全体
的にそもそも何のために KPI を立てて、何を解決するために取り組んでいる
のかということの本質から離れていると思います。

例えば、資料 1－6 追加の I で女性活躍支援を見ると、つくば市に新しく
できたふるさとハローワークにおける女性就業者の割合というものが KPI で
すが、ここが増えたら女性が活躍しているといえるのでしょうか。当社も現
在フルタイムで働く社員を 2 名募集しておりますが、こちらの個別を見ると
まだ知られていないという課題が書かれておりますが、私も改めてそうい
えばあった、使っていたかしらと思いました。正直、バースセンターの利用は
良いと思いますが、KPI そのものの見直しを早い段階でしなければならない
と思います。

私は、最初から委員をしていて②－25 の男女共同参画社会の推進の KPI
についての意見を言い、そのまま KPI の見直しをしなかったのかと思ってい
る状況です。厳しい意見を言ってくださいと言われたから言うわけではなく、
本質的な目的に応じた KPI について、どうしてこういう感じになったのかよ
く分からないです。「順調」、「概ね順調」という数字で満足するつくば市であ
ってはいけないと思います。

○座 長 ありがとうございます。「順調」、「概ね順調」についても御意見
等をいただきたいと思います。

○委 員 箱を作っても保育士そのものが足りないもので、問題解決にならな
いと言っていました。いろいろな方法があると思いますが、こどもを育てて
いる真っ最中の保育士は保育料を無料にしてあげることがよいのではないで
しょうか。一層、保育士の取り合いになると私は思います。また、資格がど

ういう風になっているのか分かりませんが、資格がない女性で子育て経験がある割合を増やしていく。それをつくば市独自でできるものなのか、国で決められたとおりにやらないとだめなのか、具体的なものを検討すべきではないでしょうか。子育て真っ最中の保育士を呼び込む戦略が大事であります。いろんなところに保育士はいると思います。そうすれば人口も増えていきます。

もう一つは、ハローワークのようなものをつくば市独自として、どこの会社は何名募集中、仕事内容、給与等、こういうものを市役所独自で発信できるよう掲示板に掲示する、あるいは担当課で職員が案内する等を考えていただきたいと思います。県のハローワークは土浦にあります。それだけではなく、人口が増えているつくば市なので、ハローワークを設置することがいいと思います。

○委 員 かなり大胆な提案がありました。私ども議会として参考にしたいと思います。具体的に言えば、保育士がこどもを預けている保育所もしくは保育園で働ければ相当楽です。しかし、つくば市はそれができない現状です。

○委 員 なぜできないのでしょうか。

○委 員 点数制でいきますから、それでいくと空いている保育園に行くことになり、どうしても今の制度ではできません。

○委 員 大きく考えないといけないと思います。こどもと一緒に保育園で働ける戦略を立てないといけないと思います。

また、こどもを増やすことについては、お金を付けてあげないといけないと思います。例えば、3人目以降は何百万、5年、7年経ったら何百万、4人目以降は何百万円等、そういう大胆なことを政策として出した方がいいです。他とおなじではだめです。若い人たちに分かりやすいように、具体的で大胆な提案が必要です。その後の結果が伴えば、安いものだと思います。払われる税金や雇用につながると考えると、こどもにお金を付けてあげる、こういう具体的な施策が必要です。

○委 員 さらに大胆な御意見がでました。この目標は東京からいかにつくば市に人を呼び込むかということですが、つくば市が子育て支援をしっかりとしないと逆につくば市から人が逃げてしまいます。そういうことを部会でも申し上げました。こういう成果の認識について、間違いなくつくば市の子育て支援は、はるかに遅れております。本質をきちんと見抜いて、そのためにどういうことを努力すればいいのかということをも成果で出して、さらに目標を掲げていかないと根本的な解決には繋がりません。そういうことを議論していただければと思います。

○委 員 人が決めたことに縛られないことです。

○座 長 ありがとうございます。最後に来年度の予算の話があるようですが、成果として反映されているのかどうかを含めて確認していただきたいと思います。

基本目標だけではなく個別目標も関連していますので、どちらでも結構ですが、御意見はありますでしょうか。

○委 員 私が最初に待機児童の話をしましたが、とても重要だと思います。それ以外に評価についても甘い点数を付けていると思います。例えば、資料 1－4 追加の①－7 バスの利用者数について、平成 28 年度は 96 万ぐらいの利用者数ですが、平成 28 年度実績値は 75 万人で A 評価であり、「順調」と数字が出ています。これは分らないです。他の評価でも C とか D とか数字が出ないのがすごく不自然だと思います。全体的に各部署で確認していただきたいと思います。そうでないと達成しないと思います。市長が「厳しい御意見を」との話がありましたので、つくばのことを思って話しました。よろしくお願いします。

○座 長 つくバス利用者数についてどうしてこういう定義になるのか、説明をお願いします。

○企画部 御説明させていただきます。備考欄に書けば良かったと思いますが、755,793 名というのは第 3 四半期の 12 月までの数字です。3 月いっぱい数字が出れば、5 月ということで確定の数字で 12 月末現在で第 3 四半期の 755,793 名と記載させていただきました。備考欄に 12 月末現在と記載すればよろしかったのかなと思います。申し訳ございませんでした。ちなみに、一番新しい数字で 1 月末現在で 834,142 名です。4 月から 1 月までの 10 ヶ月を 10 で割り、ひと月の平均を 2 月 3 月に加えますと、約 100 万人前後になります。よって「順調」と進捗説明させていただきました。ここは記載の仕方を変えたいと思います。

○委 員 ほかの資料も全て、3 月末までの数字が入っていないということですか。

○座 長 今の御説明ですとこの資料は非常に分かりにくいです。推計値が混在していて違いが分かるようにしていただく必要があると思いますが。

○事務局 御指摘のありました未確定の数字に関しましては、基本的に推計値で出していただくよう各課にお願いしております。例えば、4 月から 1 月ま

での 10 ヶ月の場合は、12/10 にしていただき、3 月までの見込み値を出していただく。もしくは、2 月、3 月の数字が例年より大きく増える場合は、4 月から 1 月までの実績値を出していただき、2 月、3 月は昨年数字を足して見込み値とするような形で基本的には出していただいております。交通の方ではそういう計算ではないとの御説明がございましたが、全体としては 1 年間実施したと仮定しての見込み値で確定するのがいつかという形で表記しています。

○座 長 資料の作りからはとても見込み値だとは思えないです。こういう資料を見ても我々は何も分からないので評価のしようがありませんが、他にも問題があります。これが見込み値ならば、後ほど修正してください。そうしないと議論は進まないと思います。

つくバスの評価が順調であるという点については先ほどの御説明で御了解いただきましたでしょうか。

○事務局 先ほどの説明に追加させていただきます。見込み値の時点で一度評価・検証を行うことでございますが、資料 1－1 でも少し御説明させていただきましたが、現時点で 3 月末までの見込み値を含めた速報という形で評価を行っていただきます。そして、年度を明けてから確定と考えております。なぜ見込み値であるにもかかわらず今日、皆さんにお集まりいただき評価・検証していただいているかということでございますが、国からまち・ひと・しごと創生の評価をなるべく早く実施して次年度の取り組みにいかすようにと助言をいただいております。加えて見込み値ではございますが、現時点で評価を行いまして、平成 29 年度は早々からいただいたアドバイスや自己評価等を踏まえて取り組んでいくために行っております。確定した後に評価・検証を行う従来の方法もございますが、その場合は夏頃に前年度の評価・検証を行う形になり、すでに年度では四半期あるいは半分程度過ぎてしまう段階で評価することになりますので、それを避けるために、今現在の見込み値を記載しております。混乱があり大変申し訳ありませんでしたが、現時点での速報値という形で評価・検証を行い、年度が明けましたら評価・検証を確定する 2 段階で行っている状況でございます。

○座 長 主旨は良く分かりました。この資料には見込み値を入れていただければと思います。個別目標も含めて他に御意見はございますでしょうか。

○委 員 資料 1－4 追加の①－6 で「つくば市内からの若者（15～29 歳）の年間転出者数の増加数抑制」について、これは大学に受かって東京に行ったことだとして、また①－5 で「東京圏からつくば市内への年間転入者数増加」は大学が終わってまたつくば市へ帰ってくることだとして、進捗説明では「順調」、「概ね順調」と書いてありますが、私はここが少しよく分かりま

せんで教えてください。

○事務局　御指摘がありました①－５は東京圏からの年間転入者数の増加，①－６は若者の年間転出者数の増加数抑制というついでになっております。①－５では東京圏から人を呼んでくる，そして同時に若者が出て行かないようにする，この２つの施策の考え方で進めています。冒頭で市長からも「東京一局集中の歯止めがかかっていない」とあいさつがございましたが，つくば市においても東京圏へ若者が出て行くことが多い現状がございますので，東京圏から人を増やすのが①－５，そして，若い人が出て行く数を減らすのが①－６という形で，二つの考え方によって指標を設定させていただいております。

○座　長　この数字も先ほどの議論と同じように，平成 29 年 6 月の見込みの数字ではないということでしょうか。

○事務局　３月末までの推計値，見込み値です。

○座　長　３月時点の推計値ですね。具体的にはどうやって推計するのでしょうか。調査の仕方を御説明してください。

○事務局　これは，平成 28 年 4 月から平成 29 年 1 月までの実績値を基に，２月，３月は人の動きの数が多くなりますので，年間転出者と昨年度の実績値を足す形で，この二つの推計を行っております。

○座　長　転入，転出の届出の数ということでしょうか。

○事務局　そうです。

○委　員　関連して質問ですが，それは抑制をするということは転出者を減らしていくことだと思いますが，平成 27 年，平成 28 年，平成 29 年と数字が増えています。微増している理由はどうしてでしょうか。子どもはどんどん少子化で数が減っている中で目標数値が上がっていく，しかし抑制していく，この数字が良く分かりません。

○事務局　これは，策定の段階で御協議いただきましたが，東京一局集中が加速している中で，つくば市でも転出者がどんどん増えている状況です。どんどん増えていく状況を抑制，抑えていくのが目標であります。昨年度も少し分かりづらいと御指摘をいただいている中，他に適切な指標が見つからない中，こちらで設定した状況です。今の時点では年間 120 人ずつ増えていく，例えば今年 4 月からさらに 120 人増えている状況です。雪だるま式に増えて

いく数字を減らしていくのが、この指標でございます。120 人ずつ増えていくのを 60 人、将来はプラスマイナスゼロにするのがこの目標の主旨でございます。分かりづらくて大変申し訳ございません。

○委員　　そうであれば、施策としてどうやって抑制するのか等はこの数字やこの表だけでは分かりません。その辺りは議論しなくていいのでしょうか。結果として若者が出なくなったという数字だけをおさえていればいいのでしょうか。

○事務局　　1－4につきましては4つの柱に付随する大きな基本目標に対する数値目標となっています。これを細かく見たのが1－6でございます。Ⅲの「交流・居住環境の魅力を高め・つくばにひとを呼び・ひとを留める」の施策の具体的な施策として、1－6追加の2ページ目の上段部分でございますが、こうした取り組みを行った結果、東京圏の転入者数が増加し若者の転出者が抑制される、個別施策の積み重ねで1－4の目標が達成する、そのような考え方になっております。

○委員　　基本的な質問ですが、資料1－6追加を見たときに、KPIの目標値と効果発現要因との整合性はどういう風になっていますか。例えば、②－8の施策は女性の活躍支援で、KPIはつくば市ふるさとハローワークにおける女性就業者の割合で、効果表現要因はキッズコーナーを整備したと書いてあります。全部共通しているのが、②－32の施策はスポーツの振興で、KPIは成人の週1回以上のスポーツ実施率と書いてあり、効果表現要因は筑波大学や団体等と連携した各種スポーツ大会を実施し、スポーツ活動を促進する機会を提供できたと書いてあります。例えば、「あなたは週1回以上のスポーツを実施していますか」というアンケートを出して、「その理由は何ですか」という質問に対して、たまたま筑波大学や市でスポーツ大会があったので、「週1回スポーツをするようになりました」というように、きちんと整合性が取れて書かれているのか。それとも何か増えたので理由を書かなければならぬので理由を書いたのか、全体的に見て、何を調査してこの理由になったのか御説明いただいた方がいいと思います。もしくは、アンケートを取った結果、こういう回答が多かったので、このような結果になりました等の根拠がないと、この理由の整合性がとれないと思います。

例えば、防犯意識の向上と書いてありますが、どういう根拠で理由が書かれているのか、少し分かりにくいと思いますので、どういう整合性があるのか御説明いただきたいと思います。

○座長　　例えば、スポーツの振興については、要因を言っているのか現象を言っているのかが良く分からないところがあるので、説明してください。

○事務局 全体の話として説明させていただきますと、委員がおっしゃたように数値が上がった成果、要因という形で書いています。例えば、アンケート結果ですと、市民意識調査という市全体の調査を用いて指標を取る場合に、その理由まで答えていただく欄がありません。数値が上がったものについては、担当課で推計、推察をして書いていただいております。理由まではっきり分かれば今回書いてありますが、分からないものについては担当課で推察をして書いていただいているのが現状であります。

○座 長 要因は、数値の数の理由を考えてみたということですね。対策まで含めたものはないものもあるようです。例えば、先ほど出てきましたが、②－９のバースセンターの利用者数は増えていますが、前年度と比較すると、横ばいであったと書いてあります。理由は書いてありませんが、ただ現象は書いてあります。本当に横ばいなのかなと思ってしまいます。それをもって次のアクションに繋がるようにはなっていないくて、この数値が何を意味しているのかを分析をしたというところではあります。

○事務局 A ３資料が全体のまとめというところで、全部は載っておりません。個別評価という形で、資料１－５と資料１－７、資料１－５の①－１左下のカッコがございましてカッコしか載っていないので、課題や今後どう取り組んでいくのか書いてないのではないのかという御指摘かと思いますが、全体の目標の中では効果の要因や成果と何が課題なのか、そして、次年度以降どう取り組んでいくのかというところでまとめております。時間の都合上、全体のまとめで御説明させていただきましたが、この資料の個別評価の方で課題、今後の取組について記載しております。

○座 長 分かりました。全体について、時間もだいぶ迫ってきましたが、２－４、１－６について、御意見等ありますでしょうか。今日この場で御意見を出しきってないと思いますので、評価やコメント等は事務局までいただきたいと思います。

○委 員 ②－４で研究機関の集約をいかしたイノベーションの創出の施策があり、つくば市ならではの研究学園都市であり、これから力を入れていくと思いますので、そういう意味では実績が１５社で総合評価がDであり、仕方がないのかなと思いますが、しかし残念でもあります。

○座 長 これはつくば市でやれることなのか、他の機関でやらなくてはいけないことなのか、御説明をお願いします。

○経済部 ベンチャー企業創出件数については、例年７社程度の実績がございまして、そういった意味では増えています。ベンチャーを起業したい方

はどうしても資金調達の面で課題があります。また、研究所や大学の外へ出て行けない、営業活動ができない実態がございますので、そういった意味では外へ出る人材活動支援が必要なのかなと思います。課題としては、アフターケアを充実する必要があると思います。

○座 長 具体的につくば市の施策の中で行う必要があるという理解でよろしいでしょうか

○経済部 資金面については少し難しいと思いますが、起業する場の確保や雇用関係の方はお教えできると思います。

○委 員 資金面でどんな風に難しいのかについては、この会議で銀行の方が出席していますので、懇切丁寧に教えていただければいいと思います。営業ができないとは、何でできないのでしょうか。

○経済部 大学等の研究者は、大学の中に事務所を構えることはできるが、利用制限があり、研究者が法人化して営業活動をする、大学内や研究所内には居られなくなります。外に出なければならなくなる実態があります。

○委 員 そのほかに方法があるのではないのでしょうか。

○経済部 場所の確保は市でできます。

○委 員 中身は場所だけの問題ではなく、社会にとって必要な事業であればどんどん起業しなければならないと思ってもらわないといけないでしょう。そうでないとつくばの良さは発揮できないです。資金の面で難しいとしても、こういう会議で銀行の支店長が出ているのでいかさないといけないところです。そうでなければ壁にぶつかっている人を支援できないでしょう。つくばで研究しているものをどう世の中に出していくのか、役所が率先して今すぐやらないといけないでしょう。やれない理由を考えているのでは話にならないですから、お願いします。

○経済部 説明が足りなくて申し訳ないですが、ベンチャーには家賃の補助や、新製品を開発したときには商品の展示会、販路拡大のための補助金やトライアル発注認定制度という形で優れた製品を大々的に市が PR して応援しております。資金繰りについては、創業支援ネットワークということで商工会や TCI でスクールや創業セミナーをやっていただき、ベンチャー企業の創出をしています。

○委 員 やる気があるのはいいが、つかんではなさず、成功させること

がやはり役所の仕事でしょう。ここから先が大事で、人口が増えていかず、仕事の場も増えていかないと思います。

○経済部 そういった意味では、市も 26 年間創業支援ネットワークという事務局を行い、商工会、TCI、金融機関でバックアップしています。

○委 員 この会議には新聞社も来ているので、市としての考えはこうだと全国版に載せてもらわないといけないでしょう。そして、全国から人を寄せないといけません。

○経済部 分かりました。

○委 員 今の議論で銀行の話がでましたが、新産業育成や新たな需要創出、雇用創出に関して、皆さんが考えているスピード感を持った対応が必要という認識は銀行も同じでございます。そういった意味では創業期、成長期にあります事業者の支援として私どもはクラウドファンディングや地方創生を創設して食や観光分野で振興に資するようなそういった御支援をさせていただいております。そのようなお話がございましたら、この構成メンバーの一員として一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。PR のようになってしまい申し訳ございません。

○委 員 どんどん PR してもらって構いません。

○委 員 ありがとうございます。

○委 員 差し出がましいようですが。委員が言ったことは正しいですが、大学では何ができないかについて、私は大学の者なので御説明させていただきます。研究開発する、いわゆるイノベーションすることまではできます。ただ、大学は国の助成金でまかなわれておりますので、そこで事業活動をすることは大学敷地内ではできません。それをやると税金を払ったり大変なことになるので、筑波大学等の場合もイノベーション、そこではインキュベーターが必要だという話になりまして、主に開発した人がいたときに、大学から別の場所にものを動かして、そこで投資して営業活動をしていくような助けを市にやっていただかないとできないとおっしゃっていると思います。最終的にはお金を入れていくことも必要ですが、そこをコーディネートする人たちがつくば市にはいません。開発まではできますが、そこから先の事業は大学ではできないので、そこを繋げていくことが必要だとおっしゃったと私は理解しました。

○座 長 この後、地方創生交付金の予算を市がどう使い、どのように問題

を解決していくのかの話があります。

時間が押し迫って来ましたので、あと一つか二つでお願いします。

○委 員 資料 1－4 追加の①－8，①－9 の成果は国家公務員宿舎の廃止による人口移動等の影響により，想定値を少し下回る結果となったと書いてあります。いずれも同じ文言となっておりますが，想定値とはどのような想定をして来られたのか。あるいは少し下回る理由は何なのか，具体的な数字でお示しいただけるとありがたいです。

○企画部 想定値ということで御質問がございました。本年度につきまして，A 3 横長の紙にございます下から 2 番目のまちなか居住人口の平成 28 年度の想定値は 94,559 名としております。

○座 長 それに対して平成 28 年実績値の 93,881 名は，やや少ないという意味でしょうか。

○企画部 はいそうです。

○座 長 最後にもう一つぐらい御意見はございますでしょうか。

○委 員 つくばの情報は，全国版の新聞で流してほしいと話しましたが，常陽新聞は毎月いっぱい休刊しますが，そういうものをつくば市全体で育てていくことは重要です。約 20 名の社員で社会情勢や住民のいろんな動き等を把握しないとイケないため，かなりの人件費がかかります。これだけ人口が増えていく市で，国の研究所をもっている場所，そういうことを情報発信していくためには，すごく大事な新聞だと私は思っています。つくばの状況を詳しく分かる新聞はあまりないです。茨城新聞は茨城県全体を書きおり，つくば市で創業を始めた新聞がなくなってしまうのは良くないと思います。市長がいるところと言いたいと思っていましたが，皆で協力しあわないとたちません。つくばで創業したメディアがもたないようではだめです。是非，常陽新聞と話をしてください。例えば，人員をすこし削っても会社が保っていける方向性についてやりとりをしてほしい。研究所の目新しい情報，大事な情報が紙面に載らないといけません。是非，検討していただきたいと思います。

○座 長 非常に重要な御意見だと思います。今後の対応も含めて検討していただければと思います。この後の議題もありますので，一旦ここで質疑は終了いたします。もちろん，その後も御意見等があると思いますので，その辺りは事務局までメール等で御連絡いただければと思います。

また，途中で確定した段階で御意見をいただくプロセスがあります。

それでは，ここで議題を先に進めさせていただきます。この後続けて，地

方創生交付金事業の評価・検証について事務局から説明をお願いします。

2 議事

(2) 地方創生交付金事業の評価・検証について

(3) 平成 29 年度以降の事業について

○事務局（資料 2－1，2－2，3－1，3－2 の概要について説明）

○座 長 ありがとうございました。平成 28 年度実施した交付金事業について説明がありましたが、時間がなくて内容についての説明はなかったようですが、特に成果があった、あるいは次年度には力が入っている事業等がありましたら個別にでも御指摘いただければと思います。御意見等ございますでしょうか。

○委 員 資料 2－1 の③－2 筑波山地域ジオパーク構想を活用した地域づくりの連携事業ですが、指標値の 300 件は人のことですか、300 人とはどういう意味ですか。

○科学技術振興部 件数になります。平たく言うと、人数にイコールになると思います。一人がフォローしていれば、1 件という形で数えております。

○委 員 フォローは 300 人ですね。

○科学技術振興部 同じ人が違うアカウントでやっている可能性もあります。

○委 員 フォロワー数の数え方は通常「人」ではないでしょうか。私がツイッターでフォローすれば 1 人になります。

○科学技術振興部次長 表記は「人」に変えたいと思います。

○委 員 つくば市役所職員だけでも 300 人以上いると思うのですが、これは目標ですか、実績ですか。

○科学技術振興部 目標値が 300 件でございまして、実績につきましては 566 件になっております。市役所職員は 1,700 名ほどおりますので、確かに少ないと言えるかもしれません。

○委 員 表記がおかしいだけであり、ツイッターというのは誰々さんのフォロワーは 1 万人とかそういう感じでやっています。だから、フェイスブック、ツイッターのフォロワー数というのは適切ではなくて、アクセス件数と

いう指標にすれば分かりやすい。フォロワーは人だから、その表記を変えればいいかと思います。

○科学技術振興部 分かりました。その辺りは相談させていただき、もう少し分かりやすい指標設定にしたいと思います。

○委 員 あと、もっと高い目標を設定してください。

○座 長 全国にジオパークがありますが、ほかの所と比較してもどのぐらいあるのか、是非参考にさせていただきたいと思います。

○科学技術振興部 分かりました。今、数字をつかんでおりませんので、その辺りも全国と比較してやっていきたいと思います。ありがとうございました。

○委 員 資料3-1のⅡの2の(4)のNo.56 インクルーシブの教育の推進事業について、特別支援教育支援員配置に要する経費が盛り込まれ、要望が叶い、経費を増やしていただきました。小学校の特別支援員の増員と中学校は今年新設になりますが、中学校はいつから支援員の配置を予定しているのでしょうか。

○教育局 ただ今の御意見の特別支援について、来年度にかけて大幅増員の募集をしており、今までは63名募集でしたが、今回は103名で今までよりも40名の増員を図っております。現在、募集をかけておりますが、まだ103名までには到達していないのが現状です。小学校も含めて中学校でも継続して進級する子どもたちもおりますので、その辺りは切れ目のないように、支援の要望がある方については継続できるような体制で臨んでおります。

○委 員 資料2-1の④-5子連れ出勤モデル事業について、効果発現要因では「当初予定した正規職員を対象とした子連れ出勤は、地方公務員法に定められた職務専念義務に違反する恐れがあることから」と書いてありますが、資料3-1にも予算が計上されています。これはどういう形で使われる予定なのか伺いたいと思います。

○事務局 この事業はひと・まち連携課が担当になりますので事務局よりお答えさせていただきます。子連れ出勤モデル事業につきましては、国の交付金を受けまして、3年間の事業で実施をする予定で考えておりました。当初平成28年度はつくば市の正規職員を対象として子連れ出勤モデル事業を実施し、そのノウハウ等を民間に活用していくためのマニュアル等を作成していく形を想定していたところでした。しかし、正規職員については職務専念義

務があり、正規職員を対象に子連れ出勤ができないことが途中で分かり、方針を少し転換して、元々民間事業者に導入していただくことが目標でしたので、直接民間事業者に導入していただくための事業という形に方向性を修正しました。そして今年度は、民間事業者に対する事業調査を先に実施をしたというところがございます。来年度以降につきましては、モーハウスで実施しているような子連れ出勤、職場に子どもを一緒に連れてきて子育てしながら仕事をする方法もありますが、それ以外にも準子連れ出勤という形で事業所内の託児所また会議室を託児室として転用する方法や事業者内託児所等、そういった幅広い意味での子連れ出勤ができないのかということを平成 29 年度以降に検討して、事業化に繋げていきたいと考えております。

○委員 子連れ出勤はつくば発であり、新しい働き方なので、全国的にも注目を集めていると思うので、新しい働き方という切り口で子連れ出勤だけではなく、女性の活躍支援の方にも繋げていけたらいいと思いました。

○座長 ありがとうございます。さまざまな御意見がありましたが、その辺りは事務局でまとめていただき、修正する部分がありましたら修正していただきたいと思います。まだまだ御意見等があると思いますので、後ほど、事務局に御連絡いただければと思います。

最後に、その他について事務局から御説明をお願いします。

2 議事

(4) その他

○事務局（資料 4－1 を用いて今後のスケジュールについて説明）

○座長 ありがとうございます。何か御意見等がありますでしょうか。御意見がないようですので、それでは以上をもちましてつくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了とさせていただきます。お時間がございましたので、ここでまとめることはありませんが、順調と言っているところでも改めて事業の見直しを行うことも必要かと思います。平成 29 年度中間見直しでも引き続き御議論いただきたいと思います。

3 閉会

○公室長 小玉座長、そして委員の皆様たくさんの御意見をいただきまして、どうもありがとうございました。それではお時間となりましたので、本日の会議を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。